

令和5年度 第2回 蜷塚中学校運営協議会会議録 (要点記録)

1. 開催日時 令和5年7月31日(月) 13時30分から15時まで
2. 開催場所 蜷塚中学校 会議室
3. 出席委員 久野 隆久 川上 玲子 田村 智代 橋本 憲幸  
重信 明利 山田 谷一 矢野 貴恵 安藤 好恵
4. 欠席委員 袴田 智恵美 佐々木 知成
5. オブザーバー 石田 博基(西部協働センター)
6. 学 校 鈴木 公一(校長) 榊原 晋(教頭)  
小谷 留美(CSディレクター)
7. 教育委員会 牧野 知子(教育総務課)
8. 傍聴者 1人
9. 会議録作成者 CSディレクター 小谷留美
10. グラウンドデザイン「あなたのCS理解度は？」 (含 グループ協議)
11. 議長の選出  
重信委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
12. 協議事項 熟議
  - (1) 1学期の学校運営について
  - (2) 2学期以降のキャリア教育について
    - ・「面接の受け方講座」について
    - ・今後の展望について
13. 会議記録  
司会の榊原から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
  - (1) 1学期の学校運営について  
議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき1学期の学校運営について説明があり委員からは、以下の発言があった。
    - ・登下校の服装は校長先生の裁量で決まっていますか。他の中学校はポロシャツを着ている子が多い。(橋本委員)
    - ・暑さ対策で、制服でなくてもよいと働きかけをしている。制服か体操服の選択枝だが、検討の余地はある。(鈴木校長)
    - ・体操服は名札があり通学時に気になるのなら、部活動のものを使用可にすることも有りなのかも。(安藤委員)
    - ・生徒から要望は出ているのか。(久野委員)
    - ・声は届いていない。(鈴木校長)
    - ・現在高校2年生の子たちが中学3年の時に、生徒会が声を上げ体操服登校が可能にな

った。(矢野委員)

- ・どんなに暑い日でも制服で登校している生徒は一定数いる。制服がいい子がいる。

(榊原教頭)

- ・高校生もステータスで修学旅行など、私服可能でも制服を着用してくる。日傘を差して登校している。(重信委員)

- ・マスクの着用はどういう状態ですか。(久野委員)

- ・生徒に任せている。子供たちは、周りの様子を見て判断している。コロナ前からメタル面でマスクを外せない子はいた。2学期からは様子を見ながら、週1回の対面給食を再開する。(榊原教頭)

- ・先生はどうですか。(川上委員)

- ・健康問題の事情でマスクを着用している人はいる。(鈴木校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

## (2) 2学期以降のキャリア教育について

議長の指示により、校長と教頭から、別紙資料に基づき2学期のキャリア教育について説明があり、委員から、以下の発言があった。

### ① 「面接の受け方講座」について

- ・中学生は、メタ認知することが難しい。進路指導では、第三者から見た自分を考えられるような機会を作ることがとても大事だと考えている。(榊原教頭)

- ・子供たちが俯瞰的に理解できるには、フィードバックが必要。フィードバックの機会を設けるのか。マニュアルを気にすることは理解できるが、テーマに対してどのように体験したことを引き出しているのか、失敗したらどう対応したのか評価していることを知ってもらえるとよい。(安藤委員)

- ・誰が協力するのか。学校運営協議会の委員と、地域の人を推薦するのとどちらがよいのか。フィードバックができる能力が必要。1対1なのか。学校からイメージを具体的に示されたら理解が早い。事前に講習を受けないと大変。(久野委員)

- ・一般的には、1対5の集団面接が多い。(重信委員)

- ・個人差があるので理解しなければならない。(川上委員)

- ・目的は、学校外の大人とふれあうことに意味がある。初対面の人と会う機会をもつだけでも違ってくる。(鈴木校長)

- ・現在は最後に手紙を渡したり、その場で助言したりしている。基本的には褒める形をとり、直すところや視点をいくつか学校からお願いする形をとる。面接の基本講座は別で設ける。質問の事例は、卒業生の書き残したものを基にする。聞かれたものに対して何を答えたのかよりも、話し方、表情や態度を指摘してもらえたら人からみた自分に気付くことができる。どういう所を見られているのか理解できる機会になればいい。いろんな人から言われることも大事。1月下旬の実施予定。3年の職員と協議をして資料を作り、9月上旬にさくら連絡網にてお知らせする。(榊原教頭)

② 今後の展望について

「生徒が本物に触れる」芸術活動支援についての提案

・空き教室が3つあり、アトリエとして一定期間開放する。作品制作を行って欲しいような人を、紹介してもらいたい。条件は、芸術作品の制作中に生徒が、様子を見たり話を聞くことが可能なこと。公募はしない。(鈴木校長)

・保護者に舞台衣装を作っている人や、デザインの仕事をしている人がいる。その人たちに紹介してもらうことも可能なのではないか。音や汚れの問題はどうするのか。学校の希望はどのように決めるのか。(矢野委員)

・鴨江アートセンターで〈アーティスト・イン・レジデンス〉同じ活動をしている。地元の美術館の館長に聞けばいろんな情報がある。(石田オブザーバー)

・地域には、芸術家が入選しているひとが何人もいる。芸術面を養い、心の教育の意味では非常に良い。学校に芸術作品が少なく、日常から鑑賞して感じることは大切。高校生の書道部に協力してもらい、短時間でひとつの作品を仕上げたところを見たらあこがれがもてる。(川上委員)

・土日はどうするのか。(田村委員)

・地域の力を借りればいい。(川上委員)

・開始時期と期間はどうか。(久野委員)

・土日は相談。3学期のスケジュールで出来たらよい。1か月くらいの期間があれば変化を見られる。1週間では短い。(鈴木校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

14. 報告(矢野学校支援CDより 1学期の活動及び2学期以降の予定)

・1学期の活動

読み聞かせボランティア 各学級1回

図書ボランティア 月に一回程度掲示製作(七夕飾り製作など)

・2学期の活動

読み聞かせボランティア 各学級1回

図書ボランティア 9・11月

・2年職場体験 12月5日・6日実施

今年から書面連絡に変更。

その他報告事項等

・司会から次回会議は、令和5年11月13日(月)13時30分から蛭塚中学校会議室で開催する旨の報告があった。

・次回議長選出は袴田委員が務める。